

第1回宇治市スポーツ推進審議会

議事要旨

宇治市

第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

〈開催年月日〉

令和2年11月27日（金）9時30分～

〈開催場所〉

市役所8階 大会議室

〈出席者〉

➤ 委員

長積 仁（会長）	立命館大学 スポーツ健康科学部 教授
佐野 恵理子（会長職務代理）	（一財）宇治市スポーツ協会 理事
上林 功	追手門学院大学 社会学部 准教授
小川 雅洋	（株）京都パープルサンガ 地域連携本部長
小西 美加	京都文教大学 女子野球部総監督 ※2021年4月～
佐藤 朋子	宇治市スポーツ少年団 本部委員
多田 重光	（公社）宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
西山 正一	宇治市体育振興会連合会 副会長
長谷川 理生也	宇治市商工会議所 専務理事
森 美奈子	摂南大学 農学部食品栄養学科 講師

計10名

➤ 事務局

山本 正	市長			
松田 敏幸	産業地域振興部	部長		
荻野 浩造	産業地域振興部	副部長		
久泉 昭人	産業地域振興部	文化スポーツ課	課長	
深澤 博文	産業地域振興部	文化スポーツ課	スポーツ係	係長
萬谷 智	産業地域振興部	文化スポーツ課	スポーツ係	主任
八木 誉昭	産業地域振興部	文化スポーツ課	スポーツ係	主任
玉木 太陽	産業地域振興部	文化スポーツ課	スポーツ係	主任
吉高 史彩	産業地域振興部	文化スポーツ課	スポーツ係	主事

計9名

〈会議内容〉

1. 委嘱状交付式

➤ 委嘱状交付

山本市長より、委員に委嘱状が交付された。

➤ 市長挨拶

➤ 委員、事務局職員紹介

2. 審議会の開催

➤ 会長選出、会長職務代理の就任について

宇治市スポーツ推進審議会条例第5条の2の規定により、長積委員が会長に選出された。また、宇治市スポーツ推進審議会条例第5条の4の規定により、長積会長が、佐野委員を会長職務代理に指名した。

➤ 審議会等の会議の公開について

審議会等の会議の公開について事務局より説明した。会長が当審議会の公開について提案した結果、第1回審議会から公開することが決定した。

➤ 宇治市スポーツ推進審議会の位置付けについて

(事務局)

スポーツ基本法第31条に則り地方スポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議させることを目的に設置する。

スポーツ推進計画については、第10条に則りスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものと定められている。

当審議会の事務局は文化スポーツ課のスポーツ係が所管している。文化スポーツ課は市長部局の産業地域振興部に属しており、産業地域振興部は自治振興課、市民課、農林茶業課、観光振興課、産業振興課で構成されている。

➤ 今後の進め方について

(事務局)

計画策定に向けて令和4年2月までに6回の審議会の開催を予定している。令和3年度上半に第2回審議会を開催し、その後、審議会の開催や実態調査、パブリックコメントを実施し、令和4年2月に予定している第6回審議会にて計画の最終案を説明する。

➤ 宇治市スポーツ推進計画の概要について

(事務局)

現計画の名称については、スポーツ基本法第10条に基づき「宇治市スポーツ推進計画」とし、期間については平成27年度から平成33年度までの7年間としている。

スポーツ基本法第10条を受けて策定する宇治市の計画であり、国のスポーツ基本計画や市政の最上位計画である宇治市第5次総合計画などの関連性と整合性を図り、施策を進めている。

本計画における「スポーツ」は「する」のみでなく、「ささえる」、「まなぶ」、「みる」、「つくる」など、人とスポーツとのかかわり方を多面的にとらえ、「市民のエンパワーメントを図る支援」、「スポーツイノベーションの実現」という考え方にに基づきスポーツを

推進するものとしている。

➤ 議事

(委員)

「健康長寿日本一」を目指すのであれば、健康教育の課題であるほとんど運動をしないという壮年期層のために、ハードルを下げた誰もが楽しくつながる仕組みづくりをすることが、健康づくりや全体のスポーツ推進になると考えている。楽しみながらつながっていくような具体的なプロジェクトができればと考えている。

(委員)

誰もが参加できる「地域運動会」というものは日本独自の文化である。現在はスマートフォン等、身近なものを使用し参加者自身が新しい競技を考えるといった「未来の運動会プロジェクト」といったものがある。現計画の「つくる」の部分が関係しており、すべての人が役割を持ち参加できるという仕組みづくりが必要である。

(委員)

従来健康づくりは、国や行政が施策を考えて住民に実施していただくという上下の関係である保健指導的なネガティブアプローチであった。すべての人が参加していただくには、フラットな関係（横の関係）が必要であり、参加者自身が考えながら実行できる行動変容が起きるような楽しい取組ができればと考えている。

(委員)

情報技術を積極的に利用することが重要な視点ではないか。現計画でも記載のある「情報の提供」というものが一方向ではなく、「双方向による情報の提供」といった形になれば横のつながりが強化されるのではないかと考える。そういった点で、SNS やネットワークの活用を仕組みとして使用できればと考えている。

(委員)

健康経営の視点で物事を考える企業が増えてきている。年1回の健康診断や、マスク着用の徹底などを実施し、従業員の健康管理に努めている。そういった健康づくりの視点から企業とスポーツのつながりを強化できればと考えている。

(委員)

横浜市はプロスポーツチームが地域の大学や企業と連携し、地域共創プラットフォームとしての拠点を構えている。積極的にプロチームと地域の大学や企業の連携を図り、共に地域を盛り上げる取組を行っている。宇治市でもプロクラブチームがシンボルとなり、企業等と協力することで何かできるのではないかと考えている。地域プロクラブチームとして、京都サンガはどのように考えているのか。

第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

宇治市にサッカースタジアムが無いという状況の中で、どのように京都サンガと協力していくのかという点が課題である。ただ、サッカーはコーチやトレーナーの方が多く在籍しており、そういった方々を活用し、プロのコーチやトレーナーによる健康指導ができるのではないかと考えている。

また、現在行っているスクール活動を活用し、宇治市の中で、市と協力しながら青少年の育成・スポーツの普及ができればと考えている。

(委員)

サポーターの活用という発想も重要であると考えており、サポーターはチームに関与できる喜びにつながる。スポーツボランティアの起源はボランティアの精神ではなく、自分自身でチームを運営するというものであり、そのような活動が自分自身が役割を見つけ活躍するインクルーシブにつながると考えている。

(会長)

観光の分野において共に魅力を発信するという点でご意見をいただきたい。

(委員)

観光の分野ではインバウンドの強化に取り組んでいる。スポーツで汗を流した後の「楽しみ」の部分強化することで観光客の増員につながると考えている。現在はワールドマスターズゲームズの開催が控えており、宇治ではフライングディスク（アルティメット）が実施される。是非、ワールドマスターズゲームズの翌年もフライングディスク（アルティメット）の大会を開催し、競技の聖地化をすることができればと考えている。

広報の面では、スポーツ選手の方に観光大使になっていただければと考えている。プロスポーツ選手が宇治で毎年決まった時期に何かをやっていただきたい。観光客受け入れの部分でも発展につながると考えている。

(会長)

インフルエンサーとして、競技の普及と強化という部分に対してどう考えているか。

(委員)

プロスポーツ選手としては観光大使等、力になれる機会があるのであればどんどん参加していきたいと思っている。今まで野球に携わっていたので、宇治市でも「野球+α何か」といった形で貢献できればと考えている。

現状では、日本の子どもの運動能力は年々低下している中で、女子スポーツ選手の活躍を期待している。女性の選手は男性の選手に比べ、子どもの視点に立ち指導することができると感じている。運動能力の低下の原因となっている幼少期の教育を簡単なスポーツを

第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

用いて心の部分も含めて教育することが出来ればと考えている。指導者ではなく、選手としての立場で子どもと関わる機会を増やしていきたい。

壮年期の運動不足については体を動かすきっかけづくりが重要であり、きっかけの1つとして子どもや孫を巻き込むことができればと考えている。子どもが楽しめて、大人も追求することができる場所づくりができればと考えている。

日常に運動を取り入れる中で、運動+仕事もできる場所等（子どもを連れてきて遊ばせながら事務作業を行える施設・バリアフリーなスポーツ施設など）様々なことを+αで叶える事のできる場所や、様々な年齢層がそれぞれ楽しむことのできる場所があればと考えている。

(会長)

きっかけづくりの先にどのようなことを期待しているか。

(委員)

現在は、女子プロ野球選手が誕生したことによって、女子の野球人口が増加している。女子プロ野球選手のような競技のトップレベルの選手が指導することで競技の普及につながればと考えている。

(会長)

競技の枠にとらわれることなく、競技の普及と強化につながることはないか。

(委員)

京都サンガが実施している小学生を対象としたサッカースクールは、週に1回小学生が参加し、その父兄の方々も見学に来られている。少年期の運動の場の提供と同時に壮年期層である父兄の方々が出かけるきっかけとなっている。そういったすべてがつながっていく仕組みづくりを宇治市でも実践できればと考えている。

(会長)

競技団体同士が分け隔てなくスポーツに親しむことが出来ないか。また、スポーツ少年団の現状を教えてください。

(委員)

スポーツ少年団同士の横のつながりは大切であると感じており、他のスポーツ少年団と連携を図り、コミュニケーションをとっていききたいと思っている。複合スポーツ少年団ではホームページやブログの開設や、団員でなくとも、ワンコインで参加することができるという取組を始め、参加者の増員を目指している。口コミによる効果は大きいと感じているので、インフルエンサーに協力をいただければと思っている。

第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(会長)

縦のつながりをつないでいくうえで、スポーツ協会や体育振興会の役割は重要であると考えている。世代間をつないでいくことや、スポーツの振興、町の振興につながる新しい仕組みづくりという観点で意見をいただきたい。

(委員)

地域運動会の敬老席に来られる方は、「見るだけで元気を貰える」とおっしゃっている。例年、地域対抗のリレーや綱引きは盛り上がっている。熱心に応援されている方もおられる中で、競技するだけでなく、見に来られる方々も仲間に入れて、地域全体で「ふるさとづくり」が出来ればと考えている。なお、「ふるさとづくり」は防災にも効果が期待できる。

地域体育振興会として、高齢者でもできるスポーツの用具（グラウンド・ゴルフ等）を貸し出し、普及活動を行っている。

(会長)

宇治市のコンテンツを魅力発信していくうえで、「食」については魅力を感じている。「食」の分野で何かご意見等いただきたい。

(委員)

某企業では勤務時間内に1日30分の歩く時間を設けている企業がある。本気で「健康長寿日本一」を目指すのであれば、職員一人ひとりが「健康づくりサポーター」を名乗り、意識付けを行うことが出来ればと考えている。また、観光地がそばにあるという利点を活かし、職員自らSNSに掲載することで、観光分野にもつながると考えている。市民一人ひとりが「健康づくりサポーター」と名乗っていくことで、主体的でフラットな取組になるのではと考えている。

(会長)

スポーツ推進計画に産業振興の視点を組み込むにあたってご意見等いただきたい。

(委員)

現在、企業が積極的に取り組んでいる「健康経営」とスポーツを結びつけ、輪が広がっていけばと考えている。

また、ここまで出ている様々な案を積極的に宇治市内の企業が実践していくことが出来れば、輪が広がっていくと感じている。

(会長)

スポーツ推進計画に宇治市の魅力発信という分野を組み込むにあたってご意見をいただきたい。

第1回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

競技の会場のそばになにか楽しむことのできるものがあればと考えている。

市民の方々が、宇治市でスポーツを行う人たちを応援できる仕組みが必要である。応援もスポーツの一部という意識を持ち、まち全体で競技を応援できるような仕組みづくりや、そのような「目に見えない文化」を作ることが出来ればと考えている。

(委員)

常に新しく、自分でスポーツをつくり続けていけるようなプラットフォームが重要。完成度の高いスポーツができる必要は無いと考えており、その日限りで使い捨てでも構わない。運動不足の人たちを巻き込むきっかけになればと考えている。

(委員)

「靴を履いていない人たちに靴を履いてもらう」ということがスポーツを始める第一歩になると考えている。少しの声掛けで体を動かすことにつながっていく。

様々な分野とスポーツと一緒に考えることは素晴らしいと感じる。

きっかけづくりは「おせっかい」の積み重ねであると考えており、少しでも声が伝わればと思っている。

➤ 部長挨拶